



P.PANEL合同会社

市原工場長

花宮 尚登 氏

ケーブルの電線を再利用したプラスチック樹脂板の製造・販売を手がける。

大学の丁寧な対応で 改良に成功

農作業の通路板として使用されていた当社の主力商品「P. パネル® (プラパネル)」を、住宅外装材へイノベーションするのに、建材開発の共同研究先が見つからないのが課題でした。そこで、取引金融機関である城南信用金庫に相談したところ、東商の産学公連携相談事業を紹介してもらい、問い合わせました。

宮里先生に相談すると、実用化までの研究ステップをととても丁寧に説明してくれました。軽くても耐震度が高いプラパネルを目指し、実験を繰り返した結果、耐力壁の強度を表す「壁倍率」の最高値5を維持した、軽くて丈夫なプラパネルの改良に成功しました。



日本大学 理工学部

教授

宮里 直也 氏

空間構造や建築構造に関する研究が専門。

スピード感を持って、 共同開発に取り組む

相談を受けた際、耐候性が高い上にリサイクルで作られているプラパネルに興味を持ちました。珍しい材料なので、一緒に研究を行う生徒にも良い刺激になると考えました。生徒らも熱心で、実験用の木造住宅2階建てを自ら製作するなど、積極的に協力してくれました。

できることから着手するなどスピード感を持つことを心掛けました。また、実験では耐震性や断熱性に加えて遮断性も測定するため、当大学の音響に関する研究者である富田隆太先生にも声を掛けて協力してもらいました。

企業が持つ良いアイデアが眠っているケースも多いので、実用化に向け本窓口を積極的に活用してほしいです。